

第26回  
外国人による  
日本語スピーチコンテスト

2017年2月12日（日）午後1：00～4：30  
ところ／県民文化センター小ホール  
主 催／公益財団法人茨城県国際交流協会  
共 催／茨城県

\*茨城県教育長賞

ウミ フィトリ ラハユ (インドネシア出身)

「二つの“あい”」

外国人の皆さんに聞きたいことがあります。初めて日本語を勉強したとき、何を勉強しましたか？平仮名ですか？片仮名ですか？私は初めて勉強したのは二つの“あい”です。この二つの“あい”ってなんだと思いますか？それは“あいさつ”と“あいづち”です。先生が「日本語を学ぶとき、日本の文化や習慣を学ぶのが大事。その中で挨拶とあいづち、大事にしてください！」と言いました。

(歌)～“おはよう”“おやすみ”“こんにちは”“こんばんは”“いってきます”“いってらっしゃい”“ただいま”“おかえりなさい”“いただきます”“ごちそうさま”“ありがとう”“さようなら”“おやすみ、また明日” 昨日の夢の続きを見に行こう。～(ここまで)

私はこの中であいさつを勉強しました。歌の通り、日本語のあいさつが多すぎると思っています。私は寮の中に住んでいるので、寮の中でちゃんと挨拶しなければなりません。例えば、夜、お風呂や図書室に入るとき「失礼します、こんばんは」、出るとき「お先に失礼します、お休みなさい」などです。寮に入ったばかりのとき、挨拶がよく逆になることがありました。例えば、友達が帰ったとき「いってらっしゃい」と言ってしまい、友達に「えっ、追い出すの」と言われました。このようなことは何回も繰り返しましたが今はもう大丈夫です。

インドネシア語にも日本語のような挨拶がありますが、あまり使わず、宗教的な挨拶を使います。しかも、会ったとき、さようならするとき、出かけるときなどはなるべく一つの挨拶しか使いません。友達に会うとき、朝、昼、夜に関係なく、ただ笑顔で「Hai」「Halo」だけ使います。だから私にとって、日本語の挨拶がなかなか難しいと思っています。

日本語の場合、手紙にも、季節の挨拶がたくさんありますよね？それを見ると、「日本人は細かいな」と思います。また挨拶に関して、言葉を先に言ってからおじぎする“語

先後礼”があります。インドネシアにはおじぎの習慣がないので、最初は「背中が痛くないの」と思いましたが、最近「いい運動になる」と聞きました。なぜかというとおなかをやせるからです。しかし、私は6月からラーメン屋さんでバイトしていて、一日100回以上きれいにおじぎしていますが、おなかがなかなかやせません。「あれ、うそだったのか」と思いますが、おじぎは本当にすてきな習慣だと思います。

二つ目の“あい”はあいづちです。日本人は会話するとき、「はい」、「なるほど」、「マジ？」などの理解していることを示します。そして、聞き手が話し手に関心を持って、会話をやわらかくするためのあいづちをします。「これはすてきなコミュニケーションの芸術だな」と思っています。

私は、この二つの“あい”に関心があって、日本に来る前、あいづちに関する卒業論文を書き始めましたが、まだ完成していません。将来、いい日本語の先生になるため、これからもちゃんと日本語を頑張って勉強します。ご清聴ありがとうございました。